

『祝日の意味するもの』

今年のゴールデンウィークは大型連休ということで、特に新幹線が開通した北海道では、多くの人の動きに期待が寄せられていたようです。このゴールデンウィークには4日間の国民の祝日が入るわけですが、祝日の意味について考えてみたいと思います。

4月29日は昭和の時代に天皇誕生日として国民の祝日でしたが、平成の時代に入ってから、12月23日が天皇誕生日となりました。

1989年（平成元年）に4月29日は、「自然に親しむとともにその恩恵に感謝し、豊かな心をはぐくむ日」とする国民の祝日「みどりの日」となりました。

昭和天皇は60年以上の長い年月にわたり在位しました。趣味で生物学の研究に取り組み、特に植物の造詣のレベルは専門家に高く評価されていました。

今や、人間が自然を破壊し森林を荒廃させています。アマゾン川流域の熱帯雨林だったところでは、樹木の伐採などにより人工衛星からの映像を見てもかつて緑色だったところの鮮やかだった色がどんどん失われています。一度砂漠と化した場所は元に戻ることはないとさえ言われています。このままでは、これまで共存し恩恵をたくさん受け続けてきた自然に対して申し訳ないことです。新緑が芽生える頃になると「みどりの羽募金」活動が全国的に展開されており、国土緑化推進機構と各都道府県緑化推進委員会が林野庁と協力して森林再生「みどり」づくりの活動支援を呼びかけています。

緑化運動に関心が高く植物を愛する日本国民にとって「みどりの日」制定は意義あるものです。このみどりの日が2007年（平成19年）から、それまで「国民の休日」とされていた5月4日となりました。

そして、4月29日は「激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国民の将来に思いをいたす日」という趣旨に基づき、「昭和の日」となりました。

昭和の時代は、戦争の惨禍を受けた歴史を重く抱えています。しかし、日本は焦土と化した国土を見事に復興し、あらゆる分野で急速な進歩を果たし世界の注目を浴びました。そして、昭和天皇の崩御により激動の昭和は終わりました。これからの日本の未来を考える時、昭和の時代から学ぶべきことはたくさんあります。昭和の時代が終わってから28年が過ぎようとしています。若い世代にとっては、明治、大正の時代と同様、昭和もすでにはるか昔の一時代ととらえている向きがあるのかもしれませんが、未だに原爆投下で代

表される戦争の後処理問題等についてはすべてが解決したとは言えない状況が続いています。今なお数多くの示唆を残している昭和の時代を顧みようとする「昭和の日」が意味するものは大きいと考えます。

このように国民の祝日は「国民の祝日に関する法律」によって定められています。

その第1条には、自由と平和を求めてやまない日本国民は、美しい風習を育てつつ、よりよき社会、より豊かな生活を築きあげるために、ここに国民こぞって祝い、感謝し、又は記念する日を定め、これを「国民の祝日」と名づける。とあります。

また、第2条では、年間16日ある国民の祝日について、それぞれの趣旨が明記されています。

平成28年から施行される国民の祝日として、8月11日の「山の日」が新たに加わります。その趣旨は、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する。」とあります。

この「山の日」は、子どもたちには夏休み期間中の祝日となるため、印象が薄い祝日となるのではないかと考えられます。また、ゴールデンウィーク中の祝日についても、5連休になるとか10連休になるということに関心が向き過ぎると、その間にある祝日については、意味が薄れがちになってしまうのではないかと思います。

ゴールデンウィークを終えて、改めて子どもたちに「国民の祝日」の意味するところをしっかりと伝えることは大切なことと考えています。